



【実施報告書】

Mission for 能登

～海の祭ismプロジェクトinとも旗祭り～

一般社団法人マツリズム

最終更新日：2022年1月13日



- 報告書要点 (p.2)
- プログラム概要 (p.3-6)
- 参加者について (p.7-9)
- 祭り当日のプログラムについて (p.10-15)
- プログラム振り返り (p.16-20)
- PRについて (p.21-24)
- 成果報告会について (p.25-29)

目的・目標に対する成果

<目的①>

参加した大学生が海の祭のことを知り、能登の海に関する課題も知ることができる



海の祭についての理解は十分に深まった。また、漁業や海洋環境を中心に海についても課題理解や興味関心も深まった

<目的②>

参加した大学生が能登の人との対話を通じて、「能登に行きたい」気持ちが高まり、実際に訪問をする



対話を通じて能登という地域や能登の人に対する想いが高まった。
(緊急事態宣言の延長で何度も延期になったが)、10/2にプログラム参加者のうち5名が能登を訪問することとなった

<目的③>

大学生が地域の方とリモートで何かを共創する体験をすることができる。それらの体験をリアルなイベントで届ける経験をする



オンラインでの対話を通じて、リアルな体験とは違った側面から祭の理解を深めることができ、場所や立場を超えて一つのを創り上げる経験ができた。また、その大学生ならではのオリジナルな視点からその熱をしっかりとイベント参加者に伝えることができた

プログラム概要

プロジェクト推進体制

全体推進・コンテンツ運営：一般社団法人マツリズム

コンテンツ企画・運営：一般社団法人ALIVE 長田健吾 氏

協力：石川県能登町、能登小木スマイルプロジェクト

サポート体制



一般社団法人マツリズム
大原学（まなぶ）



ファシリテーター&サポーター
長田健吾（おさっち）



サポーター
西貝瑤子（ジェシー）



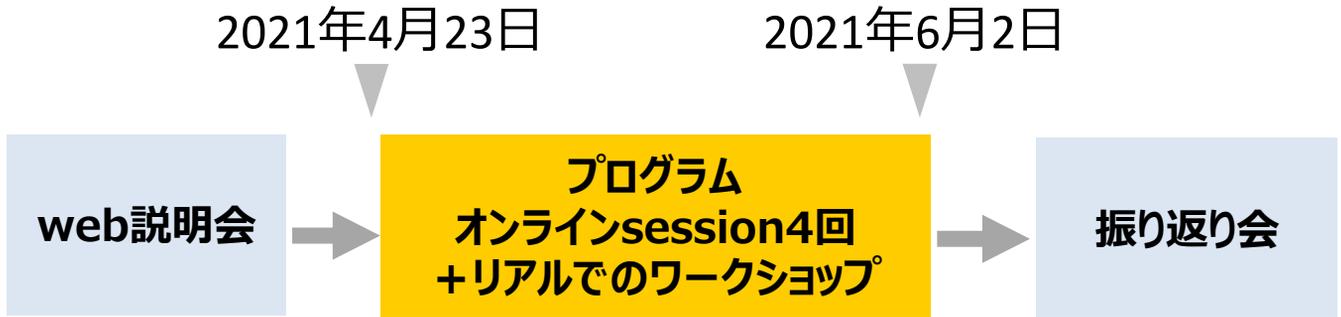
能登町役場職員
とも旗祭り担い手
灰谷貴光（タカさん）



能登町役場職員
とも旗祭り担い手
山下享弥（タカヤ）

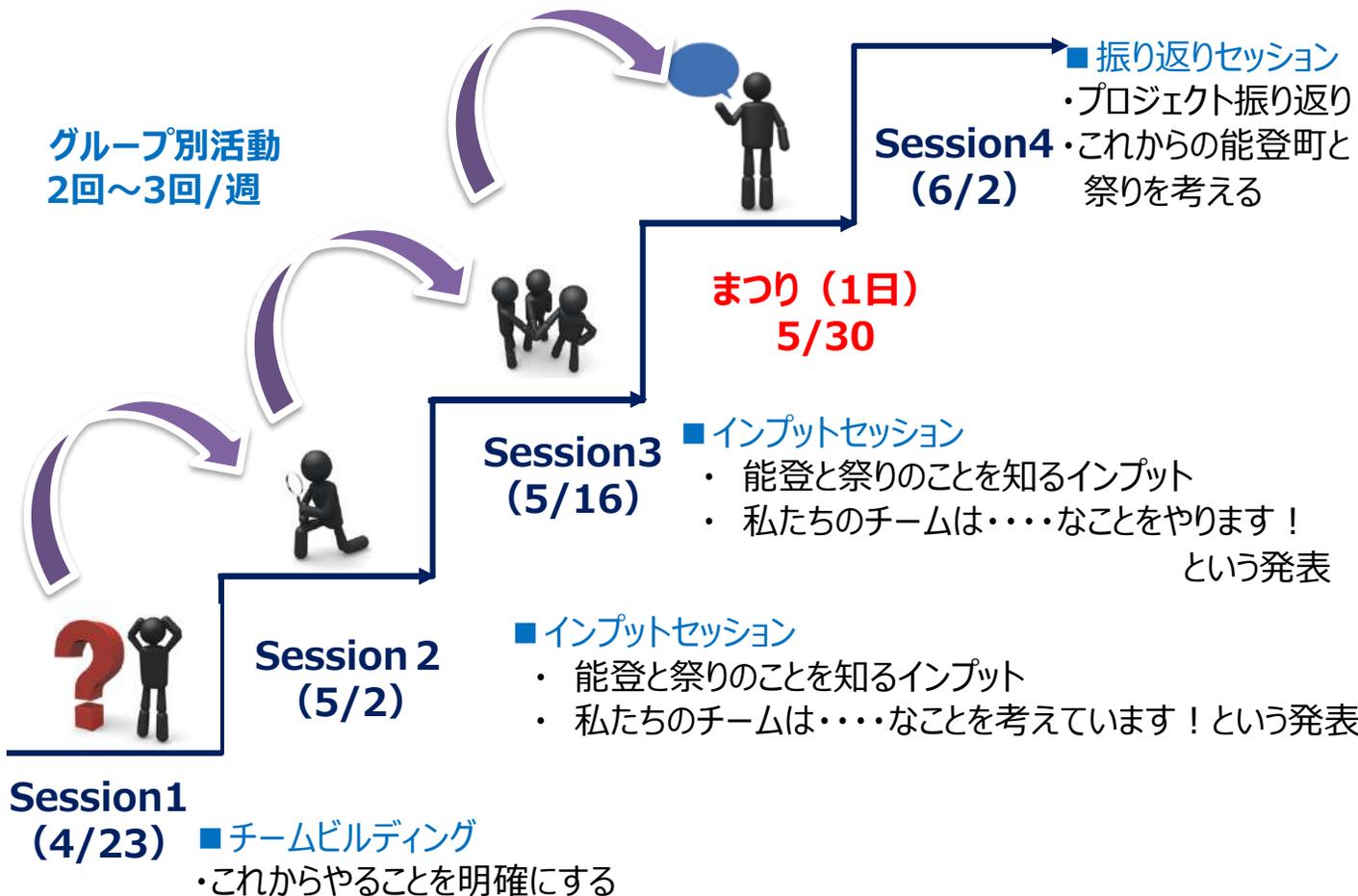
プログラム概要

プログラムの流れ



プログラムの流れ

セッション構成 (イメージ)



プログラム概要

各セッションの概要

回	場所	日時	主な内容とポイント	ゲスト
1st	オンライン	4/23 1900-2200	<ul style="list-style-type: none"> 概要を知る（海の祭ismプロジェクト主旨、ゴール） 参加者同士横のつながりをつくる（ライフストーリーテリング） 祭りとは何か、海の祭の特徴を知る 石川県能登町&海の祭（とも旗まつり）のことを知る 今後のプログラム流れを知る 	大原（マツリズム） 灰谷さん （祭担い手/役場職員）
2nd	オンライン	5/2 1900-2200	<ul style="list-style-type: none"> 能登の人と対話で地域のこと、そこに住む人の想いに触れる 実際に港を映しながら、小木地区の暮らしと海の間係を学ぶ ワークショップで何をやるのか考える（みんなでプレスト！） 	とも旗祭の担い手の方々
3rd	オンライン	5/16 1900-2200	<ul style="list-style-type: none"> 能登の人と対話で地域のこと、そこに住む人の想いに触れる 小木地区の抱える海の課題を知る（大和堆の違法操業等） ワークショップの準備を具体的にすすめる 	坂東さん （漁協職員）
ワークショップ	いしかわ100万石物語江戸本店	5/30 終日	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人と祭りにある「想い」を首都圏の人々に届ける 詳細は次ページ	
4th	オンライン	6/2 1900-2200	<ul style="list-style-type: none"> 活動を振り返り、それぞれの変化を認識する 地域と祭り、そこに集う人の未来を考え、今後に向け 	

※ ワークショップに向け、各セッションの間では向けてにチーム毎に活動を行う

参加形態

参加者10名を3つのチームに分割

各チームに
担当サポーターを配置



プログラム概要

プログラムのゴール

大学生

- 参加した大学生が海の祭のことを知り、小木の海に関する課題（違法操業や海洋汚染など）も知ることができる
- 参加した大学生が能登の人との対話を通じて「能登に行きたい」気持ちが高まり、実際に訪問をする
- 大学生が地域の方とリモートで何かを共創する体験をすることができる。リアルで届ける。

能登町

- 祭りが2年連続中止になった寂しさを乗り越える
- 自分たちの祭りの価値を見直すことができる
- 自分たちの祭りや海との結びつきを感じることができる

大目標

- 海の祭を通じた能登の関係人口創出。地域の人と外の大学生がつながりを持ち、関係性を構築し、祭りの日には能登へ帰ってくるという絆を作る。
- より多くの人へ「海の祭」の認知を高め、海の課題に着いても自分ごととして考える人を増やす

プログラムの特徴

プログラムの“売り”

- コロナで分断された首都圏と地方がオンラインとリアルで結ばれる
- 心と心の躍動（つながり・共感）をオンラインであってもつくりあげることができる
- 祭のプロと組織開発と人材育成のプロとが手厚くサポート

大学生にとってのメリット

- リアルな地域課題に挑戦する経験
- コロナ禍で薄くなってしまっている大学生同士のつながりや、地域の方々（社会人・役場）とのつながり
- オンラインを中心としたプロジェクト推進やイベントづくりのノウハウ、地域に飛び込むためのコミュニケーションスキルの獲得
- 社会人・役場の方と一緒にプロジェクトを共創する経験

参加者について

大学生参加者属性・参加ルート

No.	属性①	学部	学年	参加ルート
1	東海大学	海洋学部	1年	能登町出身
2	小樽海上技術短期大学校		1年	能登町出身
3	明治大学	農学部	3年	前年度参加者からの紹介
4	波方海上技術短期大学		2年	大学教授 経由
5	芝浦工業大学	理工学部	4年	大学教授 経由
6	大正大学	地域創生学部	3年	大学教授 経由
7	金沢美術大学		1年	能登町出身
8	武蔵野大学	グローバルコミュニケーション	4年	おさっち声掛け
9	立教大学		3年	たかさん声掛け
10	能登町役場		-	能登町在住



※ 5/30 まつり の際の集合写真。銀座に集まったメンバーとリモート参加者を交えて

参加者募集特設ページ



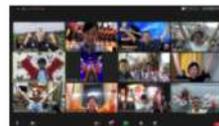
「祭りの力で、人と町を元気に！」を掲げ活動しているマツリズムが、地域を元気にしたい大学生のためのプロジェクトを実施します！毎年5月に行われる「とも旗祭り」は石川県能登町に住む方の誇りですが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、二年連続で中止に。今後祭がどうなるのか不安が募る中、地域の方々との対話を通じ、能登の海の祭りを未来につなげるアイデアを考え、可能性を探っていきます。

- ミッション
石川県能登町の「とも旗祭り」の魅力を多くの人に届けよ！

スケジュール

①4月23日 夜 1stセッション（オンライン）

オンラインでプロジェクトのキックオフを実施します。
本プロジェクトのゴールや詳細、とも旗まつりや能登について学んだり、プロジェクトと一緒にすすめる仲間とのチームビルディングを行います。



②5月2日夜、5月16日夜 2nd、3rdセッション（オンライン）

能登の人々と参加者の交流を通して、とも旗祭りや能登町が大切にしたいものを探索します。
その大切なものをワークショップでどのように伝えるか各チームで発表するとともに、みんなでアイデアをブラッシュアップします。



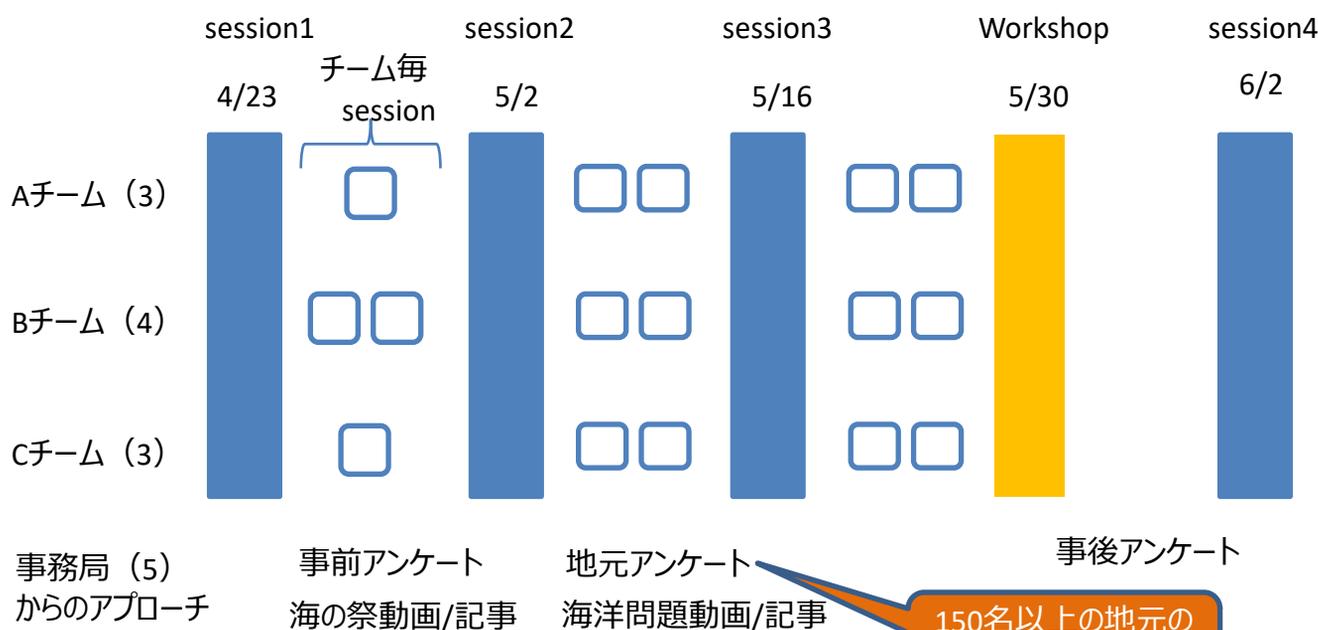
③5月30日 11時～16時 ワークショップ@銀座のアンテナショップ

アンテナショップでとも旗祭りの魅力を伝えます。
どれだけ多くの人に、どれだけ深い想いを伝えられたかを定量と定性の両方から審査しチームでのプロジェクト推進の振り返りにも使います。
※当日会場に行けない方はオンラインでの参加も可能です。



参加者について

参加者に対する事務局の関わり方



事務局としての関わり方

- 全てのチームmtgに対して事務局が最低1名は入り、チームの進捗共有や個々人の様子を共有
- ベースはアクションラーニングの考え方で、学生が自らの意思で自主的に進めていくのをサポート
- 必要なインプットは都度共有する（地域への入り込み方、オンラインのプロジェクト組成の仕方など）
- チームビルディングのサポートやゲストを連れてくるなど場を提供

Session1～4以外でのチーム毎sessionは、各チーム平均で計11回実施。それぞれが**約33時間の主体的な活動**を行なった。（地元の方へのヒアリング、アンケート調査など）



イベント概要

能登町小木のとも旗祭りの魅力を 多くの方に届ける！おまつりの開催

【概要】

イベント名	Mission for 能登 海の祭ismプロジェクト
開催期間	2021年5月30日(日) 11:00~12:30、14:00~15:30 ※各回定員 10名。先着順で、定員を超えた場合は参加をお断りする場合がございます。 ※2回開催しますので、ご都合のつくお時間帯にお越しください
会場	いしかわ百万石物語江戸本店(石川県アンテナショップ) 東京都中央区銀座2-2-18 TH銀座ビル
問い合わせ先	info@maturism.com
料金	無料
お申込み	info@maturism.com へ、5/25(火)中までに、お名前、参加人数、参加を希望されるワークショップの時間帯、当日の緊急連絡先を添えてご連絡ください
対象者	子どもから大人まで、どなたでもご参加可能です
内容	Mission for 能登 海の祭ismプロジェクト ●Session 1~4 学生と能登町の方によるグループセッション ●ワークショップイベント 参加者と能登町の方が企画したワークショップ 「能登町小木のとも旗祭りの魅力を多くの方に届ける！ 祭の開催」 ・海と日本プロジェクト説明、町と祭りの映像 ・各チームのワークショップ(20分×3チーム) ※ご参加いただけるのはこちらのイベントです
URL	https://peraichi.com/landing_pages/view/tomobata

5/30まつり当日のプログラムについて

当日の様子



会場となった石川県のアンテナショップ



Aチーム：とも旗に掲げられる「五文字」を書くワークショップ



主催者による海の祭ismプロジェクト説明



Cチーム：祭のお囃子を元にした音楽でボディパーカッション



感染対策のため人数制限及び車座形式で実施



Bチーム：祭の担い手とオンラインで直接つないで対話

5/30まつり当日のプログラムについて

当日の様子（オンラインライブ配信）



Youtube LIVE：総視聴者数393人 コメント欄のやりとりも盛り上がりを見せた

- 40:57 小林幹大 ちなみに自分は
- 41:26 小林幹大 祭能醸登行 を考えました！
- 42:03 rance0707 夢桜咲爛漫 子どもたちの夢が叶うように
- 42:08 小林幹大 意味は、この祭りを通じて能登に行きたいという気持ちが醸成されたという意味です！
- 42:43 川合 恵（けい） 能楽残生心→能登での楽しい思い出が、一生心に残り続けますように！
- 43:41 セタナイ 祭復皆笑戻⇒祭りが復活してみんなの笑顔に戻りますように！
- 44:03 小林幹大 けいさん、セタナイさん、ありがとうございます！！
- 44:55 小林幹大 ranceさん、ありがとうございます！
- 45:20 小林幹大 皆さんの五文字の想い素敵です！
- 50:17 松本雄希 神祭繋皆思 を考えてみました。
- 50:47 小林幹大 松本さんありがとうございます！
- 51:16 なみき まっちゃんさんー！！
- 52:29 川合 恵（けい） みなさん五文字の選び方素敵すぎませんか？？
- 53:45 小林幹大 本当に素敵ですよ～
- 54:50 小林幹大 最後はたけくんのお囃子演奏です！
- 56:35 川合 恵（けい） 🍌🍌🍌🍌🍌
- 56:43 小林幹大 皆さんありがとうございます～！
- 1:00:27 小林幹大 ありがとうございます！これを機に小木に何えたらと思います！！
- 1:08:51 **マツリズムMatsurism** 現在Cチームです！ ご視聴いただいている皆さんもぜひ、ポデーパーカッションのリズムを試してみてください！
- 1:09:19 小林幹大 🍌🍌🍌
- 1:15:20 川合 恵（けい） 間違えたけど楽しかったですー！
- 1:15:45 セタナイ 🍌🍌
- 1:16:02 小林幹大 現場に行って参加したいですね～！

5/30まつり当日のプログラムについて

ワークショップ参加者への配布物

当日ワークショップ参加者（午前：8名、午後：8名）に対して、アンケートと小木の特産物の配布を行った

Mission for 能登   **海と日本 PROJECT**

～海の祭ismプロジェクト in とも旗祭り～

海の祭を未来へつなぐため、地域の人と協働してできることを考える

Q-1：もっともところが動いたプレゼンはどのチームでしたか？そのチームを○で囲んでください

1番目（Aチーム） 2番目（Cチーム） 3番目（Bチーム）

Q-2：それはどのシーンで、どんなことを感じていらっしゃいましたか？

(ここが動いたシーン)

(そのシーンで何を感じていましたか？)

Q-3：今日の祭りで見聞きしたこと・感じたことがあなたの未来にどう影響しそうですか？

Q-4：自由記入欄

性別：男性・女性・その他 年齢： 代

ご協力ありがとうございました。



アンケート

小木の特産物

5/30まつり当日のプログラムについて

アンケートの回答（抜粋）

チームごとの発表に対する感想

- このお祭りのキーとなる「5文字」を実際の体験として作成できて、**地元の方々の想いがこうやって旗に繋がるのかと学べた**。このお祭りの時代時代の意義を感じられた。
- **祭の一体感をすごく感じた**。リズムだけでもテンションが上がるのがわかった。みんなで作り上げる感覚を徐々に感じた。
- 太鼓のリズムを間近で感じてワクワクする気分が湧いてきました。漢字を使って自分お思いや願いを表現することで、**祭りというものを自分に引きつけて考えることができた**ので良かったです。
- 一体感を大切にしたいという一貫したメッセージで音楽の力でメンバーの心を結びつける試みが意欲的と感じました。地元の皆さんへのインタビューがとても説得力を与えていました。
- グループワークで思いを語りあう場、きっと地元の方はナチュラルに行っていることだと思います。**これをリモートやローカル外へ広げるところに大いに可能性を感じました**。
- **グループの“一員”という感覚を強く感じた**。石川から反れている東京で、能登お祭りを感じられて、**これからの新しい祭のあり方にすごく可能性を感じた**。

今日の祭で見聞きしたこ・感じたことが未来にどう影響しそうか。

- **体験型・参加型の企画でとっても楽しめ、お祭りの果たす役割を実感できた**。
- もっと大枠で社会問題として**地方の活性化に興味を湧いた**。スタートはとも旗祭でも、ソリューションとして他にも展開できるのでは。
- コロナ禍でも今までできていたことを全て諦めるのではなく、**新しい方法や考え方で、新たな解決法が見つかる可能性が広がるのだな**と思った。
- コロナがあっても**人と人との繋がりがって重要なんだな**と感じました。実際にお祭りに参加したいと素直に感じるようになった。

5/30まつり当日のプログラムについて

アンケートの回答（抜粋）

今日のまつりで見聞きしたこと・感じたことが未来にどう影響しそうか。

- 今コロナで大人の事情に振りまわされ、規制が続く10代・20代。リアルな共通体験のできるものが少ない中でこうして地域性のあるものに出会い、継続的な付き合いができるようになれば生きていく思いや喜びを交換でき、ひいては私たちの未来を諦めずに生きるかすがいになるのではないかと。
- **とも旗祭りが地元の方の様々な思いを受け継いできたものを言うことがひしひしと伝わってきました。**そしてそれはとても尊いことだと思います。コロナが落ち着いたなら現地で体感してみたいです。
- 素直に子供を連れて行きたいなと思いました。実際に見た時の迫力はすごいのだろうなと。日本の良さを体感し、それを後世に伝える力になりたいなとおもいました。
- **来年の祭に必ず参加したい。**祭運営者の苦労話を聞くことで、自分も頑張る力を得たい。
- **地域の祭の見方・関わり方が変わりそうです。**目で見て耳で聴いて、舌で味わって、早く互換をフルに使って祭に参加できる日が来て欲しいと強く思います
- 祭を作る過程ではいろいろ大変なことや苦労があっても、本番の成功や達成を願って楽しむことができることが魅力だなと思った。
- 大学生の行動力は日本の未来に欠かせないもの。お金をもらうためじゃなく、自分が何をしたいかを、存分にトライして見てもらいたい。すごく**今日はワクワクさせてもらいました。**
- 小木という地域に関わりを持てたので、頭のどこかでいつも引っ掛かりを持つようになって、地名を聞いたり商品名を聞いたりしたときに今日のことを思い出し、**いつか小木に行きたいと思えるようになりました。**
- お祭りがこれまで通り開催できないのは残念ですが、**新しい形でつながりや音・文化を体験できて嬉しいです。**

一番心に残った出来事

- 今まで地域創生学部というなかでいろんなヒアリングとかしてきたけど、**お祭りというコンテンツがあるだけでこんなにもワクワクしたり感動するんだとミーティングとかの後に思った。心震える瞬間が何度もあった。**
- 大学に入ってすぐのタイミングで、まだ先輩と話す機会がなかったので、一つ一つのMTGが心に残っている。**対面で話したのは1回だけなのに、オンラインメインの1ヶ月程度だったのにこれまで18年間過ごした仲のようになれた。**
- 自分がつくった音楽でみんながお囃子をしてくれたこと。
- 毎週夜遅くまで打ち合わせを行い、**形がなかったものが、対話を通して形になっていくプロセスが楽しかった。**
- 地元の友達と話す場をもったこと。心配だったけど、意外と声掛けてみるとみんな来てくれたでやってみるもんだな。みんなやっぱり小木のこと好きなんだな、予想以上にそう思った。**今でもその仲間とLINEグループ電話が続いている。**
- 「大人になってから熱くなれる瞬間がある」に「いいね！」が多くついたものをみて、一般的にはそんな瞬間がないのではないかなと思っていて。大崎上島の祭りに参加したときに、同じことを言っていたことを思い出し、自分もそんなことが欲しいな。熱くなれる瞬間があることが祭りのよいことだなと感じた。
- あゆみちゃんが同級生を集めたときが印象に残っている。最初は自分との温度差があって、祭りのイメージ（大切だとか）がつかなくなったが、**同世代が熱い想いを持っていることがわかって、自分の中にストンときて、羨ましいなとか思った。**まなぶさんたちが、プライドを持ってやっているよねのコメントにも共感した。その日をきっかけに、同じ温度感で動けていると思った。

プログラムで得たこと。どんな変化があったか？

- **積極的になったことが変化。**高校のときから積極的になりたくて地域活動に参加していて、大学でも何かやりたいと思った。学さんみたく司会をまわせるようになりたい。みきひろさんや小木の友達からも変わったねと言われて嬉しい。
- **自信が得られた。**前に出て何かするタイプでなかった、前に出ても失敗していた。できないことはみんなに相談できた、自分ができる範囲で、できることに全力を尽くした。
- **チームワーク、人に頼っていいんだと思えた。**高校時代とかは全部ひとりでやっちゃうタイプだった、頼るのは申し訳なく思っていた。今回はみんながやってくれた部分が多く、頼ってばかりだった、それが新鮮ではあった。自分はこんな感じでも大丈夫なんだと思った
- **遠洋漁業に興味を持つようになった。**詳しく知りたい。土佐の遠洋漁業の本を読んでいる。小木のイカ釣り漁船の話聞いたところから。最近、出漁したニュースを見て。そのニュースが入るようになってますね！
- **オンラインでも繋がれると感じたから、オンラインでも参加できるイベントに積極的に参加するようになった**
- **能登町に行きたいと思うようになったのは大きい。**海の祭に興味を持っているのは大きな変化。言語学って文化に関わっているの、土地に根付く文化とかにもつながる。
- **自己分析ができた。**自分って、こんなことがあるなと。cチームは個性で、それぞれ違っていたので。自分自身が調整したりする、気づき。**ワークの構成にも学びがあった。自分でもワークショップをやりたい。**
- **就活でみる業種が変化した。**これまでは建物が興味対象だったが、人と関わる仕事をしたいと思うようになった。地域というコミュニティに関わりたい。小木の人たちの結束力がすごい。東京ではない。驚いたし、憧れた。

この経験は自分の未来にどう生きる？

- 学さんの投稿で、コロナで祭りができないという内容に対して諦めの気持ちだった。でも、今回のプログラムで地力、やりたいことはなんとしてもやる！みたいなことを感じた。
- **人が感動するとか心が動くポイントを考えたことがなかった。**内面的でじんわりくるような影響を考えると楽しいと思った。その人がどこで心が動いているんだろうというのを観察しようと思った。
- 卒業して就職するとき、能登の人たちに積極的に活動する。柔軟に頭をつかって、もっと魅力を知ってもらえるように**今回の活動を多くの人に広めて活きたいと思った。**
- **割と面白いものが沢山地元にあるのに、知らなかった。**今回の企画でこんなに祭りに対して語れる人たちがいてすごいと思った
- 就職活動の影響でか、就活に使えるそう！って考えてしまっていた。未来に何ができるんだろうって考えていなかった。初対面ではじめましてでも、旅行とかいった先で人と話して新しい何かを得られるのかな。
- キャリアを考える上で、都市の大企業だけでなく**地域と関わる働き方も選択肢**に入るようになった
- 行きたい地域に知り合いがいると安心感があるじゃないですか。**能登町に知り合いがいるから、能登町まで足を伸ばして行こうとなった。**単純にメンバーとのご縁。たけくんとか、なっちゃんとか。たけくんがかわいくてしょうがなかった！
- ご縁。チームメンバーと長くできたい。共通点もあって。**石川、能登町に行きたい。夏に行きたい。ふるさと納税にイカを探した！**
- **ワークショップの学びを生かしたい。**立ち位置、ふるまいなどが今後生かせそう。**達成感を感じる経験がとても大事だと感じた。それって、自分でとっていかないといけないので、やっていきたい。**

海に対する意識やイメージの変化

- 元々は漁をしている人がいるな、くらいだった。**話を聞いているうちに生活と密接に関わっていて人のつながりにも関わっている**と思った
- 癒やした存在の海だったけど、**環境などいろんなことに関わり問題もありながら守っていかねばと、知識が増えた**
- **海が身近な人がいるんだということを知った**。実家に帰ってみんなで遊びにいくところが海。**楽しい半面、危ない・気をつけなきゃなところもあるんだと、それが身近なんだなと**。もっと海のことを好きな人たちからの話を聞けるいいし、もっと共有できないのかなと思った。
- 元々身近に感じていたけど、**小木の人たちは海のことを伝えたいんだ**と思った。**話を聞く度に、海のことをすきなんだ**なと思ったし、それをこどもたちにも伝えたいんだと思った。
- **漁業資源／洋上開発にも興味を持ち始めた**。本当の船乗りって、漁師を指すと思う。そこが本当の船乗りだと自分も思った。破天荒でたくましいなと感じた。遠洋漁業を調べはじめて。いか釣り漁船の写真を見て。船体もキレイで。
- 海というと遊びにいくか見に行くだったのが、**漁業や祭りの視点がなかった**ので。あゆみちゃんと同級生から祭りで広めたくない話のところで、**海の危険性**というのがあった。そういうこともあるのかと思った。
- 親戚が八丈島に住んでいる。小さい頃から島に行っていて。去年はコロナで行けず、まずはキレイな島に行きたい。海を見に行きたい。**日本海側をあまり見たことがなく。見に行きたい**。

プログラムによる変化

■ 1番心に残った出来事は？

- **縁もゆかりもない学生が、プログラムを通して、小木のことを知ってくれたのがよかった。**
- Bチームのあやとがガツガツ言う方だったけど、けい／ゆめみと同じチームになったことで、ガツガツ言わないようになった（聞くことに注意が向いた）と言っていたことが印象に残っている。
- 祭りが2年中止となる中で、今回のような祭りもあるなと感じた。

■ プログラムを通して自分の中での変化があれば教えてください

- このプログラムによって、**参加した学生がとも旗祭りを見ると思うので、担い手の私として、ちゃんと祭りをやらないといけないなどのプレッシャーを感じた。**どこかで見られていると思うので。2年中止なので、その気持ちも強くなったかも。
- **これがなければ、今さらとも旗祭りを掘り下げることがなかっただろう。**例えばとも旗の五文字を考える発想がこれまでの固定観念があったと感じた。

■ 今回得た経験をどう未来に活かしていけそうか、生きそうか？

- 学生たちが祭りを勉強したことで、**能登町も、主要な産業のいか釣りにも興味を持ってくれたこと（現在、外国船等により厳しい状況も）**知ってくれたこと、また小木以外のことも学んで欲しいという気持ちになった。

■ その他

- 事務局におんぶに抱っこだった。行政職員だけじゃなくて他の人にも入ってもらいたかったなあと。**いつも通りのメンバーになってしまった。**

メディア掲載

No.	メディア名	媒体	掲載日
1	北國新聞	新聞	2021年5月 4日
2	北國新聞	新聞	2021年5月12日
3	北國新聞	新聞	2021年5月31日
4	石川テレビ	TV	2021年6月12日
5	神社新報	新聞	2021年6月14日

北國新聞
5/4朝刊掲載

北國新聞
5/12朝刊掲載

2021年(令和3年)5月4日 (火曜日)

北 國 新 聞

とも旗祭り継承考える

小木 首都圏とリモート会合

能登町小木の真無形民俗文化財「小木とも旗祭り」の継承を考えるリモート会合は2日夜、能登町役場小

本設で祭りばやしを披露し、首都圏の大学生らに祭りの魅力を伝えた。

「Mission forプロジェクト」と銘打ち、一般社団法人マツリズム(東京)と町民でつくる能登小木港スミイルプロジェクト実行委員会が30日に東京・銀座で祭り発信するイベントを開く。

会合では町職員や住民がコロナ禍で2年連続で中止となった祭りへの思いを語り、祭りばやしを披露する住民

能登町役場小木支所

とも旗継承に 学生の力

能登・小木

魅力発信、担い手確保へ

プロジェクトは地方の祭りを受継する「発信隊」を組織し、日本全国の「船と日本プロジェクト」の理を学ぶ。能登小木港スミイルプロジェクト実行委員会が30日に東京・銀座で祭り発信する。Mission forプロジェクトは地方の祭りを受継する「発信隊」を組織し、日本全国の「船と日本プロジェクト」の理を学ぶ。能登小木港スミイルプロジェクト実行委員会が30日に東京・銀座で祭り発信する。Mission forプロジェクトは地方の祭りを受継する「発信隊」を組織し、日本全国の「船と日本プロジェクト」の理を学ぶ。能登小木港スミイルプロジェクト実行委員会が30日に東京・銀座で祭り発信する。

今年祭りの中止

プロジェクトは地方の祭りを受継する「発信隊」を組織し、日本全国の「船と日本プロジェクト」の理を学ぶ。能登小木港スミイルプロジェクト実行委員会が30日に東京・銀座で祭り発信する。Mission forプロジェクトは地方の祭りを受継する「発信隊」を組織し、日本全国の「船と日本プロジェクト」の理を学ぶ。能登小木港スミイルプロジェクト実行委員会が30日に東京・銀座で祭り発信する。

町内外10人 活性化策探り、30日披露

とも旗祭りでも小木港内を巡行する伝統馬船—2019年、能登町小木

関係人口増も狙う

県外の学生が参加することで、関係人口の増大につながる狙いもある。プロジェクトはオンライン形式で進め、30日に東京・銀座の馬ジネンテラショップ「いわむり石物語」江口本店」で成果を披露する。

小木出身で国立阪大で短期大学2年の松本雄希さん19は「地元だけでなく、他地域の学生も巻き取り入れながら、祭りの継承の方策を考えたい」と話した。

メディア掲載

No.	メディア名	媒体	掲載日
1	北國新聞	新聞	2021年5月 4日
2	北國新聞	新聞	2021年5月12日
3	北國新聞	新聞	2021年5月31日
4	石川テレビ	TV	2021年6月12日
5	神社新報	新聞	2021年6月14日



石川テレビ
6月12日放送

【成果】オリジナルPR動画の作成

プログラムの全体の様子をまとめた10分の動画を作成しました



実施報告会について

海の祭ismプロジェクト2020報告会（オンラインライブ配信）

2020年度プロジェクト報告



ゲスト登壇者の前野先生による講演



Mission for 能登プログラム成果報告の実施



Mission for 能登にした大学生による海の祭の未来のディスカッション

15:30-16:05 ディスカッション
大学生と考える「海の祭」と「祭の未来」



岩田 なつこ

明治大学
農学部 食料環境政策学科



三井 悠

マツリズム プロジェクトマネージャー
環境系IT企業勤務

小林 幹大

小樽海上技術短期大学校
航海専科



並木 綾人

大正大学
地域創生学部 地域創生学科



Mission for 能登現地報告会

報告会の目的

2021年4月～6月に実施したMission for 能登（大学生向けプログラム）の趣旨は、首都圏の学生が能登町に訪問し海の祭への参加体験を通じ、海に対する学びを深め、地域活性化に貢献するというものであった。

しかし、新型コロナウイルス拡大の影響により、現地調査・訪問が叶わず、大学生プログラムは完全オンライン形式及び都内での実施となり、地域側へのインパクトが弱かった。そのため、事業期間を延長し、大学生プログラムの報告会・現地の人々との意見交換会という形で、大学生による能登町訪問を行った。

実施事項

①能登町役場への表敬訪問

日時：10/1 16:00-16:30

出席者：プログラム参加学生3名、町役場職員3名、事務局スタッフ

場所：能登町役場 会議室

実施事項

- ・プロジェクトの報告、記事やプログラム紹介DVDなどの贈呈
- ・学生と役場職員を交えた感想・意見交換

②地元住民に対するプロジェクト報告会

日時：10/2 19:00-20:30

出席者：プログラム参加学生5名、地元住民10名（一部オンライン参加）

場所：能登町役場 小木支所

実施事項：

- ・プログラム概要報告、プログラム紹介動画の視聴
- ・住民との意見交換会（感想共有や特に地域の未来に向けた取り組みについて、グループに分かれてワークショップ形式で行った）
- ・横断幕を持って写真撮影

③能登町訪問

- ・プログラムにゆかりのある場所を訪問、イカ釣り体験等も行った

プロジェクト現地報告会について

Mission for 能登現地報告会

① 能登町役場への表敬訪問

日時：10/1 16:00-16:30

出席者：プログラム参加学生3名、町役場職員3名、事務局スタッフ

場所：能登町役場 会議室

実施事項

- ・プロジェクトの報告、記事やプログラム紹介DVDなどの贈呈
- ・学生と役場職員を交えた感想・意見交換



プロジェクト現地報告会について

Mission for 能登現地報告会

②地元住民に対するプロジェクト報告会

日時：10/2 19:00-20:30

出席者：プログラム参加学生5名、地元住民10名（一部オンライン参加）

場所：能登町役場小木支所

実施事項：

- ・プログラム概要報告、プログラム紹介動画の視聴
- ・住民との意見交換会（感想共有や特に地域の未来に向けた取り組みについて、グループに分かれてワークショップ形式で行った）



③能登町訪問

